

らをみられたことはとてもうれしい経験でしたが、それと並んで、今回の団体行動での経験は、私にとって新鮮で、貴重なものになりました。山行の最終日に奥穂高岳で御来光見たときの感動は、胸にくるものがありました。長いようにも短いようにも感じた夏合宿が終わり、私は今、夏合宿に行けてよかった、この経験ができてよかったと思っています。(1年生・野本)



中央アルプスパティー

日程...9月5日~13日

L:平松 誠 SL:大嶋 ひかり

ルート:御嶽山 キビオ峠 木曾駒ヶ岳
空木岳

・2011年9月5日早朝。中央アルプスパティー8人、金沢駅出発。

今回の夏合宿では独立峰の御嶽山を踏破し、その後は空木岳まで縦走を行う予定だった。メンバーの気合は十分、体調も万全、装備もチェック済み。私達は大きな期待と少しの不安を胸に中央アルプスに挑んだ。しかし、残念ながら全日程が予定通りにいくことはなかった。下調べの甘さから行程変更を余儀なくされたり、暴風のため沈殿したりと夏合宿には付き物のトラブルも発生。パーティーとしてはもちろんだが、各々で反省すべき点多かった。それでもメンバー全員が元気で楽しく過ごせたことは何よりだったし、今回の夏合宿が1人1人に何らかの影響を与えたことは確かだろう。ハプニングはあったものの、全体的に見ればとても充実したものだ。ありがとう中央アルプス、ありがとう中央アルプスパティー!!!(3年生・大嶋)

・9月5日に始まり中央アルプスを縦走した夏合宿は、今でもはっきりと記憶に残っている。というのもこの夏合宿が今まで自分が経

験してきた登山活動に比べて、とても大規模なものだったからだ。登山日程9日間、前日の準備を含めれば10日間にも及ぶ大がかりな登山計画。あまりの大規模さに計画書を見た時から興奮していた。興奮続きのままに始まり、終わった夏合宿だったが、終えてみて自分が精神的にも肉体的にも大きく成長したことが分かる。それだけでなく登山していて色々得るものがあったと自分で思う。その中でも私にとって最も有意義だったことは、読図や登り方の様な、山に関する知識を真の意味で活用できるようになったことだ。具体的には知っている知識を登山中に活用し、考えて登るようになった。それに合わせてこれからも山に関する知識を得て、それを実践の中で活用していきたいと思えるようになったことは、何よりも大きな変化だと思っている。(1年生・出倉)



南アルプスパティー

日程: 8月23日~30日

L:渥美 翔大 SL:飯島 悠紀子

ルート:甲斐駒ヶ岳 仙丈ヶ岳 北岳
間ノ岳 農鳥岳

・現役最後の夏合宿を南アルプスで過ごした。北、中央のアルプス、北海道にも行ったものだから、最後は南アルプスで締めようと思い意気揚々と行ったのはいいものの晴れたのは初日の甲斐駒ヶ岳と下山日だけで、その他は見事に雨とガスに悩まされた山行になってしまった。他のパーティーはほとんど晴天に恵まれたようで、かなり嫉妬していたのは内緒である。だが、やはり時折見ることのできる3000メートル級の山々からの景色は格別だし、登ること自体の楽しさはいくら天気が悪くても楽しいものであるし、まったく退屈する

ことなく、いつも笑顔でいられたのもパーティーのみんなのおかげであると思う。

3年間はあっという間で、もう最後の夏合宿かに行く前はなんとも言えない思いであったけれど、3年間で一番楽しかったし、他の登山者と違って多人数で山に行くことができるのもワングルの良さであることを改めて認識できた良い山行であった。

(3年生・渥美)

・8月末に行った夏合宿、南アルプスの山行は、それまでの石川県内の山行のものとは違った良い経験ができた。天気が悪いときもあったが、登山経験の少ない自分としては、数々の3000m級の山を登った達成感は大きかった。南アルプスの山行を行う前は、ついていけるかどうか心配があったが、なんとか無事に終えることができてよかった。しかし、3日目の仙丈小屋に向かう際に、バテて周りの人に迷惑をかけてしまい、非常に申し訳なかった。また、役職としての会計の仕事は、大金を管理するということが大変だったが、収支を合わせて終えることができたのでよかったと思う。上回生の方は、それまでの山行でもそうだったが、非常に頼もしく、さらに山行の中で様々なことを教えてもらった。反省すべき点を反省し、その知識を今後活かしていきたいと思う。(1年生・愛宕)



【2. PW等】

冬合宿 2010年12月26~27日

・金沢大学ワンダーフォーゲルは2010年の12月下旬に冬合宿として1泊2日で荒島岳に登りました。当初の計画では中出登山口から入山し、小荒島岳を通り、シャクナゲ平でテント泊をしたのちに、荒島岳に登頂すると

いう予定でした。しかし、2010年は荒島岳でも積雪量が1mを超えており、ラッセルでの登山は困難を極めました。僕はここで初めてラッセルを行いました。高く積もった雪は予想以上に重く、雪を踏み固めることも次の一歩を踏み出すことも想像以上に大変な作業だったので、気温が氷点下だったにもかかわらず、すぐに汗だくになってしまいました。結果として日没後も少し行動したにもかかわらず、稜線にたどり着くのがやっとで、2日目も天候が良くなかったため、すぐに下山することになりました。あまり進むことができずにもどかしい思いをすることも多かったのですが、夏とは違った冬の山の大変さ・危険・美しさに触れることのできた収穫の多い合宿となりました。(2年生・吉田)

雪上訓練、2011年2月5~6日

・雪上訓練は医王山で行ないました。医王山は積雪していないときから訪れている山で金沢大学ワンダーフォーゲル部には親しみのある山だと思います。しかし、僕たちにとってある程度は知り尽くされ、何度も歩いたことのある山は積雪期となるとまるで別の山を歩いているかのように感じられるほど姿を変えていました。今までは違った景色、積雪のために姿を消した道、慣れ親しんでいる山にただ雪が積もっただけと考えていた私は医王山のあまりの変わりように驚きました。雪上訓練としてはピッケルを使った滑落停止、雪洞づくり、ゾンデなど冬山で使用される道具の使い方等を行ないました。具体的な技術を学ぶとともに寒さやルート探索の難しさなどから冬山の怖さを知ることでも雪訓から学べました。(2年生・坂田)



獅子吼PW 2011年6月25日

・初めてのPWだということで、どんな山行になるのだろうかと期待に胸を膨らませて登ったが、ガスと大雨にやられてしまった。朝から雲行きが怪しかったが、何とかなるだろうと根拠もない自信を抱いて登山したのだ。登山口から奥獅子吼山へ向かう途中で大雨が降り、転倒したり木々に引っかかったり苦戦し、到着しても「360°絶景パノラマをご覧ください」の看板の周囲は何も見えず、スカイ獅子吼へ向かう途中はもはや沢下りといえるほどであった。ただ、スカイ獅子吼では少しガスも晴れ、下界を見渡すことができたので山に登ったという実感がありよかったと思う。この山行はPWらしかったと思う。吉田さん曰く、「この大雨を経験すれば、もう怖いことなんてないよ。」である。大雨の中歩く練習や、サブザックカバーを忘れたことによる反省など、いろいろなことを学ぶことができた。ただ、次回行くときは晴れてほしいと心から願う。(1年生・伊藤)

北アルプスPW、2011年8月16~19日

・このPWは「とにかく北アルプスを縦走する！」という予定だった。具体的には称名滝登山口から入山し立山、薬師岳、雲ノ平を通じて折立から下山するというものだ。メンバーは筋力トレーニングをし、ハイドレーションシステム(行動しながらでも水分が摂取できるよう、チューブを口にくわえるもの)を購入して準備万端で山行に臨んだ。しかし、山行初日から天気が悪い。初日の行程は予定どおりに消化できたが、初日の夜、天場で暴風雨にあい、テントが水浸しになってしまった。二日目も天候が回復せず、ラジオの天気予報で停滞前線が接近していると聞いたので三日目に下山することになった。結局、不完全燃焼のまま立山の室堂からバスで下山ということになってしまったが、メンバーの安全を最優先したリーダーの判断は正しいと思う。また行くぞ！北アルプス！

(1年生・平原)



富士山PW、2011年8月18~21日

・今回の富士山PWの目的は、一日で富士山に登っちゃおうというものでした。そこで、前日に富士山に到着し体を慣らしてから早朝出発で登りはじめ山頂でお鉢めぐりをして日本一の景色を楽しみ下山するという華麗な計画が立てられ、このPWは始まりました。ところが、このPWは悪い意味での予想外がたくさん待っていました。

まず、実際に富士山の五合目についてのは前日どころか日付の変わる深夜零時ごろに何故かなってしまいます。当日、寝不足の目をこすりながら我々は歩き始めますが、今度は天気が悪くなり始め、神社についたころには、ひどい雨とガスで景色はまったく見えませんでした。山小屋で日本一高いラーメンを食べつつ、軽い高山病で頭がズキズキ痛む我々は、一刻も早く下山しようということになり、剣ヶ峰だけをまわってから一目散に下山しました。結果的に散々な富士登山となってしまいましたが、個人的には登頂できてうれしかったです。(1年生・山岸)

槍穂PW、2011年9月9~12日

・昨年(2010年)の夏合宿が終了してから、僕はもう一度槍穂に登りたいとずっと考えていました。夏合宿が台風の影響でほとんどの日程を消化できずに終了したためです。本来なら夏合宿で行ったはずの槍穂へのリベンジは1年越しの計画となりましたが、今年の9月9日から9月12日まで3泊4日の日程でつ

いに実現させることが出来ました。初日はあいにくの悪天候で、槍ヶ岳山荘のテント場でも沈殿や下山を覚悟するほどでした。正直この時点では「今年もダメか」という気持ちでいっぱいでした。しかし、次の日からは一転して好天に恵まれ、槍ヶ岳、横尾山荘、涸沢を経て北穂高岳、涸沢岳、奥穂高岳と計4ピークに登頂しました。どのピークでも素晴らしい景色と達成感が味わえました。今回このPWは計画段階から様々なことを勉強する機会を与えてくれたPWでもありました。素晴らしい山の記憶と、とてもいい経験をさせてくれた有意義な山行であったと思います。(2年生・古田)



空木岳PW、2011年10月8～10日

・「ワングルに入ってよかった。」4回生として数少ない山行だった空木岳PWでは山に登る魅力を再確認し、ワングルで過ごした4年間を振り返る山行となりました。私は10月8日～10日の3連休に中央アルプス空木岳に行ってきました。メンバーは奇しくも4回生ばかり4人でした。行程は2泊3日で千畳敷より空木岳まで縦走する、余裕を持った行程でした。山行は3日間晴天に恵まれ、紅葉の秋山を堪能することができました。私は、ワングルに登山というツールを通じて仲を深め楽しい思い出をつくる部活だと考えています。今回短い日程とはいえ、気心の知れた同回生と空木岳に行くことで、そうしたワングルの魅力を確認することができました。もちろんそれは同期だけではなく先輩後輩との関わりで築いてきたものです。そう

したかけがえのない時間を過ごしたワングルの人たちと、卒業してからもまた山に登りたいと思い、空木岳を後にしました。

(4年生・白石)

山小屋作業、2011年10月22日

・昨年は犀川ダムに至るまでの、道路が通行止めとなっていたため、中止となった山小屋作業。今年度は、久富さんを初めとしたOBの方々、渥美リーダーを中心に現役生21名の合同作業を予定していました。しかし、当日は雨。犀川ダムまでは行ったものの、悪天候のため、現役生は作業を中止し、帰ることとなりました。現在では、山小屋作業経験者が、3年生以下で3名となってしまいました...僕は、来年度こそは、山小屋作業を実現したいと強く思っています。

金大ワングルの先輩方の思い出がつまったベルクハイム、そして高三郎山。先輩方が残してくださった伝統を、是非後輩にも伝えて行きたいと思います。そして、OBの方々、車で送迎や、差し入れ、本当にありがとうございました。

来年こそは...待ってる、ベルクハイム、そして高三郎山!(3年生・平松)

主将後記

いかがでしたか。今年度は1年生10名を新たに迎え、PWも数多く出るなど、活発な活動ができたと思います。主将としては、皆の安全を第一に考えました。未熟な主将でしたが、協力してくれた部員の皆に本当に感謝しています。来年度以降のみんなの活躍にも期待しています。

また、学年が上がるにつれて、金大ワングルの伝統を紡いでくださった数多くの先輩方に対する感謝の念が強くなってきました。僕たちが当たり前のように山に登れるのも、先輩方が残してきてくださった数多くの財産のおかげです。そのことを忘れずに、これからも、山に登り続けたいと思います。本当にありがとうございます。

それでは!